

県PTA広報 とっとり

編集・発行／鳥取県PTA協議会
事務局／鳥取市扇町21〒680-0846
県民ふれあい会館内
TEL0857-21-2285 FAX0857-21-0906
E-mail : tori-pta@gamma.ocn.ne.jp
<http://www.tottori-pta.net/>

第40回(社)日本PTA中国ブロック研究大会鳥取県米子大会
今を生きる子どもたちへ



～未来へ夢を紡ぎ心を育てるPTA～

今を生きる子どもたちへ
未来へ夢を紡ぎ心を育てるPTA



記念講演
演題

「生きる」
講師 アルピニスト 野口 健氏

第40回日本PTA中国ブロック研究大会鳥取県米子大会においてアルピニスト野口 健氏による記念講演



会長あいさつ

こんにちは、今年度会長に就任しました石田昭博です。11月13日（土）にアルピニストの野口健氏の記念講演、「劇団ピュア」による実践発表を主な内容として、米子コンベンションセンターにおいて、第40回日本PTA中国ブロック研究大会鳥取県米子大会を開催することができました。改めて西部地区のみなさまのご尽力に感謝いたしますと共に、参加の皆様に御礼申し上げます。

私たちのPTA活動の基本は、学校単位の子どもたちの顔が見えるところで、安心して楽しく学べる環境が提供できるよう努めることにあると思います。人と人との絆が薄れていく昨今、同じ年代の子どもを育てる親にとって、PTAは大きな役割を担っていける組織であると思っています。

また、平成23年度に小学校、平成24年度に中学校で新学習指導要領が実施され、ゆとり教育から学力重視・活用能力の充実へと大きく変わります。私はかねてから問題になっている学力の二極化傾向に歯止めがかかることを期待しています。学習内容が大きく変わるので、これまで以上に、学校・保護者の更なる協力はもとより、地域社会と一緒に活動が必要となり、子どもたちに生きる力（考える力）を育てていかなければなりません。

PTA活動は時間の無駄だと考える方もあるかと思いますが、子どもが学校へ通う間だけの期間限定です。研修会・交流会などに参加し、学びと出会いを大切に、大いに自分磨きの場としても、今後の人生に役立つこと間違いなし。共に頑張りましょう。

63号の主な内容

- 会長あいさつ 1
- 第40回日本PTA中国ブロック研究大会
鳥取県米子大会 2~3
- 中部地区各PTA連合会活動報告 4~5
- 県P母親委員会って 6
- 環境対策委員会活動報告 6

『県P母親委員会って!!』



私の所属する単Pには母親委員会があります。でも母親委員会がない単Pもあります。その実態に気づいたのは、恥ずかしながら県Pの副会長・母親委員長を引き受けたからのことでした。男女共同参画が推進されるなどの時代背景から、「『母親委員会』そのものや名称を検討しては?」との声も聞こえてきました。単Pによって違いますが、たとえ父親委員会・母親委員会がなくても、子どもたちのために、我々は保護者としてPTA活動を日々取り組んでいます。

今後、単P・連合会の意見の集約等も含め、多くの方の意見をいただきながら『母親委員会』の在り方を検討していくたいと思います。

さて、現在の県P母親委員会の活動としては、①お互いの活動の向上につながる、単P・連合会の活動を情報交換する委員会 ②各種講演会・研修会等への参加 ③独自研修会が主な活動内容です。

今年度の研修は「子宮頸がんから子どもたちを守るために」の演題で鳥取県福祉保健部の福田さんより講演をいただき

きました。病気そのものの特徴・発症のしくみ・ワクチンについて学びました。最近テレビ等でも女性タレントがコマーシャルで、子宮頸がんの早期発見・治療を訴えていますが、まだまだなじみの薄い病気です。ワクチン接種は3回、費用は4~5万円と高額になり、保護者の経済的負担は相当なものとなります。県内自治体で費用助成を実施しているところはまだ少なく、国の助成有無の決定もこれから。子どもの命を守る親の役目として更に学ぶ必要があると思いました。防げる病気なのですから…。

このような研修会の様子は、連合会・単Pを通じてお知らせします。日々の活動の中で感じられている疑問・質問・意見等、事務局までお知らせいただければ幸いです。

これからも大切な子どもたちのために!!

精一杯「親業」しましょう!!

鳥取県PTA協議会 副会長・母親委員長 山本和代

環境対策委員会活動報告

PTAの源流を尋ねて

環境対策委員会では、昨年度実施した「基本的生活習慣の定着をめざした取り組みアンケート」の結果をもとに、各単位PTAの実践が他のPTA活動の参考モデルとなる学校を取材しました。

取材した内容は、フリーペーパー(小冊子)・HPにより、PTA会員の皆さんに紹介していきます。是非、PTA活動の参考にしていただければと思います。



取材した学校は、鳥取市立東中学校、修立小学校、稲葉山小学校、岩倉小学校、津ノ井小学校、三朝町立西小学校、琴浦町

立以西小学校、古布庄小学校、大山町立中山小学校、米子市立後藤ヶ丘中学校の合計10校です。

取材を通じて感じたことは、単に基本的生活習慣の定着を目指した取り組みではなく、地域あるいはPTAが一体となって子どもたちのために活動していることが、結果として子どもに基本的生活習慣を定着させる素地をつくっていることです。

まさしくPTAという大海原にそぞろ清流の水源を発見した思いでした。今後は、世界遺産ならぬPTA遺産として日本PTA全国協議会100選に推薦し紹介していきたいです。

鳥取県PTA協議会 環境対策委員長 西谷若美



編集後記

まずは、県PTA広報とっとりに記事を書いて下さいました皆様にお礼申し上げます。

今月に入り二名の講演者から「知っている、わかっている」と「できる」は異次元ほど大きな違いがあると話を聞いた。情報の多い世の中でも知っている事は多くあっても、果たして自分たちが実践(できる)していることは何があるのだろう?と考えさせられた。親として色々な事に携わり、行動できる大人で成長し続けたいと思う。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

小椋義彦

編集委員

横山 隆雄(県P協総務委員長)

小椋 義彦(中部広報委員会総括 東伯 三朝東小)

河田 勝弘(倉吉成徳小) 藤井 晶子(倉吉久米中)

鳥飼 弘伸(倉吉関金小) 保田 晓美(倉吉鴨川中)

吉村 博美(東伯 大栄小) 横山 利香(東伯 東伯中)

坂本千亜紀(東伯 以西小) 山本恵津子(東伯 東伯中)

連合会活動報告

倉吉市小学校PTA連合会 研修大会

「オール1の落ちこぼれ、教師になる」

平成22年11月27日(土)に倉吉関金都市交流センターにおきまして、倉吉市PTA連合会による会員研修会を開催いたしました。講師として、愛知県から私立豊川高校の「宮本延春」先生をお招きし、『オール1の落ちこぼれ、教師になる』という演題で、講演していただきました。

宮本先生は、まずは「3年B組金八先生」の話題を取り上げられ、武田鉄矢も含め出演者やスタッフ一同に自分の名前を読み間違われていたことなど、おもしろいエピソードを随所に織りませながら軽妙な語り口で会場を沸かせてくださいました。1時間半という限られた時間での講演でしたが、参加された皆さんは飽きることなく、最後まで楽しんで聞かれたのではないかと思います。

また、いじめを受けていた少年時代、そして両親との死別で極貧生活を余儀なくされた青年時代について赤裸々に語っていただきましたが、重苦しい雰囲気はなくかえって爽やかに聞けたのは私だけだったでしょうか。

更に、この荒んだ時代を経験してきた宮本青年を変えたものが、なんと23歳の時にたまたま見たアインシュタインのビデオだったこと、その後24歳で定時制に通



い、かけ算九九から勉強を始め、27歳で名古屋大学に入学したこと、そして教師になったという話の件では、もう聞く側の心もクライマックスに達し、会場全体が宮本ワールドにどんどん引き込まれていくのが感じられるほど迫力満点のお話でした。

最後に「元気な大人を見て子どもも元気に育っていく」と言われた言葉が印象的でした。まさに、この講演会に参加された皆さんも宮本先生から元気パワーをいただいて帰られたと思います。

宮本先生が、時間が押して講演終了際に「続きはまた来年ここで」と締めくくられましたが、本当に来年もこの続きを聞いてみたいと思えるすばらしい内容の講演でした。参加していただいた皆様には、少しでも子育てのお役に立てただけたらと思います。

吉田 均

東伯郡中学校PTA研修大会・スポーツ大会

東伯郡中学校PTA連合会主催の研修会は9月25日(土)に琴浦町スイングパレスを会場として鳥取県図書館協会会長の山田 晋先生に「敗者復活のチャンス」と題し、講演いただきました。先生ご自身や教え子の失敗体験を通して、その失敗から何を学び、学ばせるかが大切であり、その時にこそ自分の力で判断し、行動する力が身に付く。という内容のものでした。質疑の中で「やる気のない子、あっても本気で取り組まない子」へのアドバイスをという質問に、先生は「子育てのディベート」の必要性を訴えられました。家庭の中で親が失敗談等語り合う、子どもとのディベートの大切さを学んだ講演でした。

会場を移し、町総合体育館で約300名の参加の中、「綱引き」で交流を深めました。例年と違うのは審判団に鳥取県綱引き協会の方を招き、本物の綱引きの雰囲気で行ったことです。集合・入場・開始・チェンジコート等の競技から応援の注意点まで指導を受け、かなり格調高い雰囲気の中で熱戦が繰り広げられました。優勝三朝中

A、準優勝東伯中A、3位大栄中Aで幕を閉じました。会場変更が重なったこと、綱引きの終了時間が遅くなつたことで会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。研修大会、スポーツ大会に参加いただきましたすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

門脇志伸





倉吉市中学校・養護学校PTA連合会 研究大会

7月4日(日)倉吉未来中心小ホールにおいて第38回研究大会を開催しました。講師に倉吉市立成徳小学校長新川裕二氏をお迎えしました。「風を切り、笑顔あふれるPTA活動をめざして」と題し、学校現場、社会教育の立場で豊富な経験をお持ちの新川氏から、PTAの目的・歴史。これからPTAがめざす取り組みなどをお話いただきました。家庭・学校・地域が共につながり、守り導くという役割を果たしていくことが不可欠だと改めて感じました。

また、倉吉市の子育ての取り組みと、他市町の具体的な実践例を紹介いただきました。

特に印象に残ったのは会見小学校のGTA(Grandparents Teacher Association)ー祖父母と先生の会ーです。昼間の学校支援を父母に代わり祖父母が行うものです。孫の入学時に入会し卒業時に退会するのだそうですが、退会されない方も増えており、地域と学校の結びつきになっているそうです。

おしまいに、これからのPTAの取り組みとして「会

中部地区各PTA

員や地域の課題解決を目指し」「地域との関わりを大切」にしながら「地域の宝としての子」を育ててほしいとおっしゃっていました。そして保護者と教職員がぴったりと手を合わせる(Pittari To teo Awaseru)=PTAとまとめられました。

参加者の皆さんからは、わかりやすく、ユーモアと示唆に富んだご講演だったと好評でした。

保田暁美



東伯郡小学校PTA連合会スポーツ交流会

東伯郡小学校PTA連合会スポーツ交流会が10月17日(日)、三朝町農林漁業者トレーニングセンターにおいて、16校のPTAの皆さん約250名にご参加いただき開催されました。

毎年、開催校により競技種目が決められますが、今年は綱引きで競技しました。

1チーム男性4名、女性4名の計8名で構成され、まずは、8チームでの予選リーグ戦をA、Bリーグで行い、各リーグの上位3チームが決勝トーナメントに進出します。

競技が始まると、会場は異様なまでの盛り上がりで各チームの応援合戦が繰り広げられ、選手の皆さんも応援に応えるべく熱戦が展開されました。

予選リーグ突破のためには7試合で5勝2敗がボーダーラインとなるため、選手交代のタイミングも勝敗の分かれ目となったようです。

決勝トーナメントでは、予選リーグで敗退したチームも各町のチームの応援に参加し、更に大きな声援を選手の皆さんに送っていました。

その結果、今年は優勝が西小(三朝町)、2位に北条小

(北栄町)、3位に東郷小(湯梨浜町)・東伯小(琴浦町)という成績でした。各チームの皆さんお疲れ様でした。

今年もいい汗をかきながら勝っても負けても笑顔で参加できた交流会でした。

交流会の設営・運営にお世話をいただいた郡PTA連役員の皆さん、東小をはじめ三朝町3小学校のPTAの皆さんありがとうございました。

吉村博美



米子大会の報告

●平成22年11月13日(土曜日)
●米子コンベンションセンター(ビッグシップ)

野口健さんと言えば、世界最年少7大陸最高峰登頂に成功した登山家として有名です。近頃は、社会貢献活動の一つとして環境問題に取り組み、清掃登山をされていることから、「ごみ収集の野口さん」と言われる事が多くなったと苦笑されていました。落ちこぼれの中高生時代を過ごす中で、植村直己さんの1冊の本と出会い、登山家を志すことになったそうです。自然と向き合いながら自分の生き方を貫いておられ、とても偉大な方だと思いました。

素人の私には、夢やロマンを求めて登山を楽しんでいるかに見えましたが、実はそうではなく何度も死に直面されたそうです。登頂に成功した喜びの裏には、多くの友人を失った悲しい体験がありました。一緒に登山した友を失った時の下山の苦しみ、動けなくなった仲間を残して帰る苦渋の決断。死を感じれば感じるほど死への拒否反応で「生きたい」という思いが強くなると話されました。野口さんの語られる言葉には前向きなものが多く、考えさせられることが多々ありました。例えば、「人は生まれてから死をむかえるまで総合的に見て目標が50%超えれば自分の人生は成功だ」「2度のエベレスト登頂の失敗は、次へつながるステップである」「夢があると思えばやりがいがある」などです。このような信念を胸に、清掃登山を含め、次世代のため精力的に活動される姿勢には脱帽します。「人の評価を気にすることなく自分の信じる生き方をする」「あきらめないこと」など、子どもたちにぜひ伝えたいと思いました。前向きな気持ちになれる大きな力をいただいた大会でした。

谷口眞弓

* * * * *

午後から楽しいアトラクションの後、アルピニスト 野口健氏による記念講演が行われました。

まず最初に、危険を背にしたエベレスト登頂の様子、エベレストや富士山における清掃活動、また環境問題(地球温暖化)に取り組む姿勢や途上国への学校設立、そして、フィリピンで戦死した日本兵の遺骨収集にいたるまで、内容が凝縮されたビデオを視聴しました。



劇団ピュアによる実践発表「夕焼けポレポレ」



淀江さんこ節保存会による「さんこ節」

野口氏は、ご自身が登山家を目指し始めたきっかけから現在の活動まで、まさに演題の『生きる』力を通して、熱く語られました。

今や、社会貢献の代名詞でもある方ですが、落ちこぼれだった高校生時代、植村直己さんの本と出会い登山を始めたこと。大学では自ら企業に出向き、スポンサーを探した苦難な時期があったこと。2度の失敗を乗り越え、エベレストに登頂したこと。などとても苦労があったのでしょうか。それを感じさせないほど軽妙な語り口に会場が引き込まれました。

「そのエベレストではいくつも帰れないでいる遺体を見るが、恐怖感はなく、むしろ戦友のような気持ちを覚えた」とも。もちろん、『死』を感じたが、感じれば感じるほど『生』に対する執着心が湧いたのだそうです。このように生と死は一体であると教えられました。

成功ばかりではなく、失敗があるからこそ今の野口氏がおられるわけですが、その中で「何を持って成功で、何を持って失敗か。他人の基準で自分の成功・失敗は決められないのだ。」と話されていたのが印象的でした。

また、「環境問題に取り組んでいるが、国内では言葉ばかりが飛び交っており、現場の悲惨さは知られていない。」とも話されました。“知る”ということは“背負う”ということだそうです。私たちは野口氏の活動を聴いて、少しでも知ることができたでしょうか。

「人間社会を相手にすることは、大変だが夢がある」とご自分の立場を語っておられました。私たち親も一緒になって未来へ夢を紡ぎ、心を育てながら本大会のテーマ、「今を生きる子どもたち」を支援していくことを強く思わずにはいられませんでした。

坂本千亜紀



米子市児童文化センター「たのしい箏クラブ」の演奏

第40回日本PTA中国ブロック研究大会鳥取県

第40回日本PTA中国ブロック研究大会鳥取県米子大会は、平成22年11月13日(土)米子コンベンションセンター(ピッグシップ)にて、『今を生きる子どもたちへ』～未来へ夢を紡ぎ心を育てるPTA～をテーマに、開催いたしました。

中国ブロック各地より2000名あまりの参加者が集い開催できましたことを感謝申し上げます。

境港荒神楽太鼓保存会様の勇壮なオープニングアトラクションに始まり、相川 敬日本PTA全国協議会長様のご臨席による開会式、「劇団ピュア」(米子市PTA会員・OB・OG)による実践発表「夕焼けボレボレ」(人と人とのつながりをテーマにした演劇)を演じていただきました。

午後は第59回日本PTA全国研究大会兼第41回日本PTA中国ブロック研究大会広島県ひろしま大会のPR後、米子市児童文化センター『たのしい箏クラブ』による箏の演奏・淀江さんこ節保存会によるアトラクション後、アルピニスト野口健氏による大会記念講演は『生きる』という演題でご講演をいただきました。

この大会は、すべての根底に『生きる』ことをテーマとした大会でしたので、少し重たいと思われた方もいらっしゃったことと思います。しかし、この大会を通じ『生きる』ことの大切さを少しでも考えるきっかけとなれば幸いに思います。

おわりに、今大会に出演いただいた各団体様、参加者の皆様、大会運営に携わっていただいた皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。大変有り難うございました。

第40回日本PTA中国ブロック研究大会鳥取県米子大会実行委員長 恩田正重

* * * *

参加者の感想

子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、思いがけない悲惨な事件が起こるようになって久しい今、学習指導要領も改訂され、「確かな学力」と「豊かな心」を身につける実践教育が進められるなか、命の大切さについての教育のあり方が問われています。次代を切り拓く心豊かでたくましい子どもたちを育むために、PTAが家庭・学校・地域を結ぶ要であることを再認識し、さらなる活動の充実と発展を図ることであります。

開会前には、境港荒神楽太鼓保存会より、境港の情景、伝統、祭りの雰囲気が伝わってくるような素晴らしい太鼓の演奏が行われ、開会を迎えるました。

実践発表では、劇団ピュアによる『夕焼けボレボレ』の演劇発表でした。中学時代の友達を亡くし母校の教室に寄り、さまざまな当時の思いを振り返る内容でした。

家庭教育で一番大切なことはコミュニケーションです。そこで一番大切なことは、「聴く」ということで、真剣に聴くことにより相手を受け入れ、気持ちを共有し、ほんとうのコミュニケーションが成立するものではと感じました。午後からは



アルピニスト野口 健氏

アトラクションで、米子市児童文化センター『たのしい箏クラブ』の1年生から6年生による演奏と、淀江さんこ節保存会によるさんこ節を披露。石田会長さんが飛び入り参加をされるなど、和やかな雰囲気で盛り上がりいました。その後、アルピニスト 野口 健氏の記念講演(演題「生きる」)です。

エベレストの登頂に成功され、世界中をかけめぐり現実を見て来られ実体験を元に講演されました。冒険家だからこそ感じる、無理には、やって良い無理、やってはいけない無理があり、死との隣り合わせでありながらの瞬時の判断力が成功の証であると感じました。

来年度は、8月26日(金)、27日(土)の日程で第59回日本PTA研究大会・第41回日本PTA中国ブロック研究大会広島県ひろしま大会が開催されます。是非とも多数の参加をよろしくお願いします。最後に、米子大会にご尽力いただきましたPTA会員の皆様には大変お世話になりました。

大江博文

* * * *



境港荒神楽太鼓保存会によるオープニングアトラクション